

I 青果情報

1 5月下旬～6月中旬の経過

気 象	5月下旬は、気圧の谷となりやすく、北・東日本日本海側及び西日本太平洋側で旬降水量は多かった。旬間日照時間は、東・西日本太平洋側と西日本日本海側で少なかった。なお、気温は全国的に平年より高く、東・西日本で5月下旬としては記録的な高温となった。 6月に入ると、上旬は台風6号が沖縄・奄美付近から東・西日本太平洋沿岸付近を通過し、その前後にも各地で線状降水帯が発生する等、全国的に降水量が多かった。しかし、中旬は一転、各地で高気圧の影響で晴れた日も多く、沖縄・奄美を除き旬降水量は平年並か少なく、日照時間は多かった。
-----	---

野菜類

入荷量	「キャベツ類」「たまねぎ」「ばれいしょ類」を中心に入荷。 低温、梅雨入りの影響で生育スピードが鈍化し、後続産地の数量が想定より伸びない品目が目立った。 「ブロッコリー」は北海道・長野県・東北等の後続産地が干ばつや低温の影響で増量が少なく、前年を下回る入荷量が続いた。「きゅうり」は埼玉県・福島県・群馬県とも天候不安定や端境となり数量・品質が不安定となった。 野菜全体では、5月下旬から6月中旬までの入荷量は115,347t（前年比103.3%）と前年をやや上回った。
相 場	単価の推移は大きな変動はなく、相場が下がりきらない底堅い品目が多かった。多くの品目で特売時は荷動きが良いが、それ以外の平常価格帯では動きが鈍かった。量販店中心に一定の需要があり、関東から東北産地への切替で引き合いが強まる場面もあった。 野菜全体では、5月下旬から6月中旬までの価格は285円/kg（前年比101.0%）と前年並であった。

果実類

入荷量	「すいか類」「メロン類」「りんご類」を中心に入荷。 「おうとう」は山形県産が過去2年にわたり不作続きだったが、本年産は生育順調で高温の影響もなく、数量、品質ともに十分となった。「メロン類」は順調な生育で前年を上回る入荷量が続いた一方、「すいか類」は前年をやや下回る入荷量が続いた。「もも類」は山梨県産の生育が早く、増量ペースも前年を上回った。 果実全体では、5月下旬から6月中旬までの入荷量は21,756t（前年比107.4%）と前年をかなり上回った。
相 場	販売金額は「すいか類」「メロン類」「おうとう」の順に大きかった。 「おうとう」は入荷量が前年を上回った半面、単価は前年を下回る傾向が続いた。また、2年続いた不作の影響でギフトや特売品目としての需要が減少したことからも売行きは鈍くなった。 果実全体では、5月下旬から6月中旬までの価格は611円/kg（前年比109.0%）と前年をかなり上回った。